



アルコール依存症治療に携わる さまざまな職種とその役割

3

アルコール依存症治療における看護師の役割と貢献

The role and contribution of nurses in the treatment of alcoholism



独立行政法人国立病院機構
さいがた医療センター 看護師

阿部 かおり
Kaori Abe

Summary

アルコール依存症をもつ方への看護師のおもな役割は、離脱症状の出現を早期に発見し症状の緩和に努めること、安心できる環境づくり、そして、患者の日常生活に近い医療者として、頻繁にコミュニケーションをとり、細やかな観察を続けることである。そして、患者が多くの支援者や他患者間において、人から癒やされる体験や、自己を受け入れる体験を通して、回復の道を歩めるよう寄り添うことである。また、看護師の視点から得られたさまざまな情報は、患者本人やご家族だけでなく、多職種・多機関と共有し、患者がその人らしく生きていける治療に貢献できると考えている。



Key Words

患者理解, アルコール依存症, 多機関連携, 日常生活を看護に生かす, 居場所としての病院

はじめに

アルコール依存症治療はおもに精神科病棟で行われるが、看護師がアルコール依存症をもつ方と出会う場はさまざまである。アルコール関連問題の幅広さや、重症度の違いなどから、救急外来、内科外来や病棟、訪問看護、産業保健等で遭遇することが考えられる。そのため、精神科病棟で働く看護師だけがアルコール依存症患者の看護に携わることはならない。たとえば、習慣的に多量飲酒をされていた方が、急遽入院することになったのをきっかけに禁酒せざるを得ない環境に置かれた場合は、精神科病棟以外であっても離脱症状の観察や対応も重要となってくる。

本稿では、入院治療で行われる看護を中心に述べるが、先に述べた精神科病棟以外の場であっても、アルコール依存症をもつ方への看護は変わらない。目の前

に登場した患者さん1人ひとりに敬意を払い、困難に対する解決策をともに考えながら、患者自身が自分の回復を信じられるよう寄り添うことが大切であると考え

入院時の看護

アルコール依存症患者は、入院治療に抵抗を示すことが多い印象がある。入院予約をしていても来院されないことは、よくあるだろう。周囲の人たちは、アルコール関連問題が山積しているのだから、早く治療を始めるべきだろう、酒を止めるべきだろう、という考えに至る。しかし、筆者は依存症患者ら本人にその声が届いていないのではなく、届いているからこそ、アルコールの問題で困っているというSOSを安心して吐けずに苦しんでいるのではないかと考える。自身の苦しい